

福祉文化現場セミナー –福祉文化と街づくり新潟市沼垂地区を歩く–に参加して

日本福祉文化学会理事（北陸ブロック担当） 五十嵐 真一

1 セミナーの概要

令和3年(2021年)6月6日(日)標記セミナーに北陸ブロック理事の立場として(も)参加した。新潟福祉文化を考える会の参加者は8人で、参加者の内訳は日本福祉文化学会正会員5人、今後入会予定の1人及び地元の福祉系大学の学生2人だった。

コロナ禍においては、セミナー自体の開催形式を以前とは変更、ミニ化せざるを得ず、参加者は県内在住者、定員10人と限定した中での開催だった。好天にも恵まれ、ほぼ全ての活動を屋外で行うことができ、感染症対策としてマスク着用、検温を実施し、必要に応じ手指の消毒も行った。

2 沼垂地区商店街の感想（一言だけ）

この通りは、毎月第一日曜日は、歩行者天国となり、通行する車の心配もなく、ユニバーサルトイレも常設されていることから、老若男女を問わず誰もが安心して参加できるように考えられているように思った。そのためもあってか、この日も多くの人々の参加があった。

その他沼垂地区の概要や当日の様子は、他の方の報告に委ねることにしたいが、私からは今後の新潟福祉文化を考える会の活動についての所感を中心とした形で記してみたい。

3 新潟福祉文化を考える会の今後の活動について（所感）

当日の挨拶でもお話ししましたので、重複する部分がありますことをお許してください。

6月5日の理事会では、多くの理事等から他ブロック、他機関との「連携」の必要性の言葉が聞かれました。これは、新潟福祉文化を考える会の今後の活動を考える上で、ポイントとなるのではと思います。何故なら新潟福祉文化を考える会の活動は、コロナ禍の現在においてはかなり制約がありますが、他ブロック・他地域・他分野の、どこからでもアクセスでき、参加できる活動であり、しばらくはそういうダイバーシティの視点ももった活動を目指していきたいと考えています。異分野（異文化）への興味関心と交流は、参加される側、参加していただく側のお互いにとって次の活動の栄養になり、エネルギーとなっていくのではないのでしょうか。一つひとつは小さいことかもしれませんが、学会活動の生命線ともなるブロック活動においてそのようなことの繰り返しで、日本福祉文化学会全体の活動の活性化につないでいきたいと思っています。各位の御意見お聞かせください。

「沼垂テラス商店街」福祉文化現場セミナーに参加して(ミニ紀行)

日本福祉文化学会前理事（北陸ブロック担当）関矢 秀幸

(煙突がお出迎え)

柏崎から高速バスを利用し、万代シテイのバス停で下車し会場へ向かった。

途中でまよってしまい、タクシー利用、結構近かったので「600円」であった(笑)

かつて、北前船がいき交い、モノと人との交流の拠点であった、沼垂エリアに入ると、昔ながらの商店街と、製紙工場の紅白のエントツが迎えてくれた。小さな看板が目印の小路を曲がれば、レトロすぎる長屋が立ち並ぶ「沼垂商店街」であった。

煙突で思い出した映画があり、1962年公開の「キューポラのある街」(吉永小百合主演)、2020年公開の「えんとつ町のプペル」(芦田茉奈、窪田正孝主演)を思い出してしまった。せっかくの晴天、ゆっくりと周辺を散策しよう！。

(沼ねこを探して)

事前にHP等で調べたが、どうやら沼垂地域のキャラクターは、「沼ねこ」らしい。商店街には猫がおおいのか？、各店舗には、ネコにまつわるものがあるのか？、とっていたが何もなかった。しかし、一つ見つけた「沼ネコ焼き」である。商店街名物として誕生して以来大人気とのことであった。また、バリスタが丁寧に淹れるコーヒーもあり、一服の価値ありであった。

(寺町通りと四国霊場)

悉地院と龍雲寺を参拝した。特に悉地院には、「四国八十八ヶ所霊場」めぐりのミニチュアがあり、八十八か所全てめぐって心から「福祉文化学会」の繁栄を祈念した。

(テラス周辺の食)

以前は製紙工場の従業員や、近隣の酔客でにぎわった路地も今では「ちゃこ」という居酒屋のみで営業とのことであった。夕方明かりが灯るころになると常連さんでカウンターが埋まるデイブな店とのこと。名物のママさんと会話が弾むらしい。今度コロナが収まったら、メンバーとママに会いに行きたい。

お昼は中華料理「麗華」を選んだ。メンバーはタンメン、塩ラーメン、私は五目ヤキソバをチョイスした。ギョーザも食したがおいしいものであった。夫婦で切り盛りしており、のれんをくぐると笑顔で迎えてくれる中華屋さんである。メニュー豊富な店であった。

渡邊豊理事から「大佐渡たむら」を紹介されたが、昼の営業は終了であり残念。沼垂で50年続く海鮮・郷土料理の店であり、腕も確からしい。

(ここでしか味わえないもの)

昔の面影を残す市場通りの長屋、古めかしい錆びた薄汚れた看板も残しながら、店主それぞれのセンスが光る商店街であった。古さの中に新しさが感じられる不思議な空間であった。そんな中で月一回開催される朝市が商店街の一大イベントとのことであり、今では、県内外から多くの人が沼垂に足を運ぶようになったとのこと。市場通りの時代から続く朝市文化であろう。まさに、沼垂地域を照らす(テラス)光となっている。

今回は正味2時間程度の滞在であったが、有意義な現場セミナーであった。

沼垂の福祉文化現場セミナーに参加して

社会福祉士・介護福祉士・准看護師 出羽 秀輝

6月6日(日)11時に新潟福祉文化を考える会の5名と新潟医療福祉大学の学生2名にて沼垂テラス商店街を福祉文化の視点から実際に散策してきました。

当日は晴れていたため、沼垂には駐車場が少ないことからバイクにて行きました。沼垂の商店街で散策するだけかと思っていたのですが、行ってみると歩行者天国になっているではありませんか。

その雰囲気は私の想像をはるかに超えた!(川口探検隊風に)

そのため、沼垂商店街の関係者だけではなく、外部の人たちも出店していてフリーマーケットやDAIDOCOさんのかき氷などもあり、バラエティに富んでいました。

11時に集合場所に集まりソーシャルディスタンスを保ったなかでの開会と自己紹介。沼垂のちょっとした概要の説明があり、基本的には自由行動での散策。

沼垂には新発田藩溝口家の準菩提寺があり、戊辰戦争の際には本陣にも使われた龍雲寺がありました。他にも色々な宗派のお寺が密集していることから、沼垂は昔から宗派を超えて共存しており、日本石油製油所や貨物等の運搬や沼垂芸者などがいたことから栄華があり、様々な文化を取り入れていた町なんだと実感することができました。

今回のような歩行者天国は毎月第一日曜日に行い、町おこしをしているとのこと。同じ新潟市に住む私はその情報を知らなかったのもっと周知することが必要であり、新潟駅からのアクセスや車でのアクセスが問題なので、改善すればさらに盛り上がる考えた。

福祉とはお互いがwinwinになることだと思っているので、行って幸せ、来てくれて幸せの関係になれるといいと思った。

最後に沼垂ビール&ビアパブの駐車場で小さい歌のライブをしており、詳しい人に聞いたところ、NST(新潟総合テレビ)の歌を唄っている人だとわかり、ビックリしました。沼垂は1日では足りない魅力的な町でした。

『新潟の元港町、旧沼垂市場のレトロな長屋と

一本奥の道に入るとアンダーグラウンドな街並みが広がる地域』

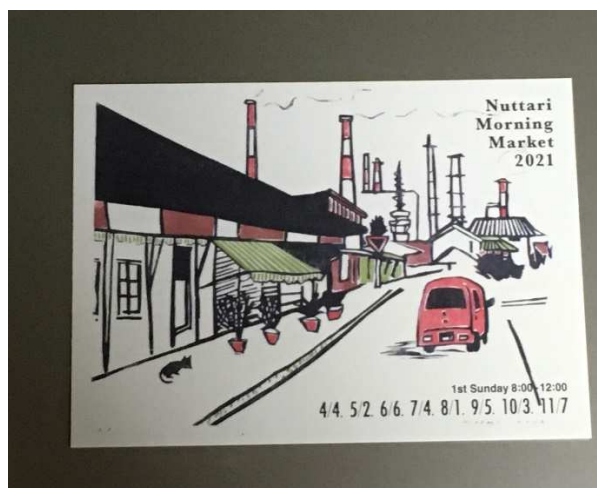
日本福祉文化学会理事・広報委員長 稲田 泰紀

*アンダーグラウンド（英語：underground）は、直訳すれば「地下」ですが、文化のジャンルでは主流ではない隠れた存在だが優れている肯定的な解釈です。

新潟市中央区の信濃川河口近くにある、古くからの町「沼垂（ぬったり）」。特徴的な名前がこの町で、もともと市場として使われていた長屋を改装し、昭和レトロな町並みを残しつつも新しく生まれ変わった『沼垂テラス商店街』一。

2010年から少しずつお店がオープンしはじめ、2014年に店舗全体を管理する事務所が開設。その後、続々とお店が増え、2015年春にはついに、旧沼垂市場のすべての長屋が店舗として開業。

煙突がたくさん立っていて、昔も今も工場で働いている皆さんのココロも身体も癒してくれている沼垂エリアを旅してきました



『古本屋さん FISH ON』

本屋を広大な「海」と例えるなら、本を読む僕らは海を漂う「魚」といったところでしょうか。

フィッシュ・オンはお客様が自由気ままに、スイスイ漂える海のような古本屋をめざしています。



というメッセージのように、大勢の子ども達がキラキラ目を輝かせて日本だけではない海外の本を読んでいます。

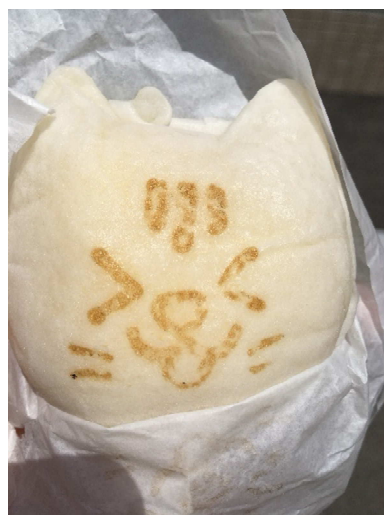
3歳くらいの男の子が「この本、ど〜ぞ」と手渡してくれた絵本を読んでいます（笑）

『ネコと共生する街』 地域共生社会の実現に向けて☆

沼垂テラス商店街は昔、青果を中心とした市場だったため、ネズミの見張り番としてネコが重宝され、地域の人々と共にのんびりと暮らし、またかわいがられていました。

数多くの守りネコ、招きネコがいたと思いましたがなかなか会えず…とあるお店の店主からは「このネコは気分次第でフラッと遊びに来て、また旅に出かけるのよ」といかにもネコの特徴を笑いながら話してくれました。また次回のお楽しみに

それでも「沼垂＝ネコのいるまち」で定着していることもあり、ネコ好きさんが時折訪ねてくる場所となっているそう。



■ 『Ruruck Kitchen』 ネコ焼き（笑）

■ 『ひとつぼし雑貨店』 地元ブルワリー沼垂ビール☆

可愛いネコ焼きとよだれが出ていますが、美味しい地元ビールがあります。

何より、ネコ好きにはたまらない雑貨類が用意されています。



一本路地を抜けるとアングラな世界観、どこか懐かしい雰囲気タイムトリップ
沼垂テラス商店街の一本小道に入ると、そこはまた別世界が広がっています。こういう雰囲気大好きです。親戚の？洋服のイナダもありました（笑）



こんな雰囲気の中で、居酒屋も良いですが、より地域の方の生活を感じることができるスポットとして銭湯を探します（笑）→『さか井湯』さんに立ち寄ってみました。

コーヒー牛乳と迷いましたが、暑かったのでアイスクリーム（笑） すごくレトロ☆
地元、地域に密着した現場セミナーは福祉文化の片鱗に触れる素敵な機会でした。



「沼垂テラス商店街」福祉文化現場セミナーに参加して

新潟医療福祉大学社会福祉学科3年渡邊豊ゼミ 田中 璃奈

今回、私は沼垂テラス商店街へ初めて行きました。フィールドワークに参加する前は、商店街と言っても市街地からは少し離れているため、落ち着いた雰囲気想像していましたが、実際に行ってみると商店街の活気に驚きました。両側にお店やテントが連なり、子供から高齢者まで幅広い世代の地域住民の方が訪れていました。家族連れやカップル、若者グループ、1人でいらした高齢者など、形は様々でしたが、商店街の方とお客さんの距離が近いと感じました。商店街の様子に目を向けると、カフェや食堂、工房、雑貨店、花屋、本屋など、レトロ調というのでしょうか、懐かしさを感じる外観で、心躍りました。

印象的だったのは、ペンキの剥げた看板が塗り直されることなく、そのままの状態で見られていたことです。文化の視点で見ると、かつて市場として使われていた当時の色褪せた外壁や錆びたシャッターを残すことで、味や風情を感じるのだと思います。

正午を過ぎると、テントや店じまいをする光景が見られました。その光景から私は、変な話、売上のためにお店を出しているのではないのだろうと感じました。地域住民らの交流の場としてお店を設け、訪れる地域住民同士はもちろん、お店の人自身が地域の方との交流を楽しんでいるように見えました。とても温かく、素敵な空間でした。

印象的だった出来事があります。古本屋で「この本面白いんだよ。」と友人にある本をお勧めしていたところ、隣にいた高齢の女性が「あら、そうなの？読んでみようかしら。」と言って購入していました。全くの他人でありながら、私の言葉を信じてくださったことに驚くと同時に、そのような関わり合いができる人と人とのつながりを改めて感じ、心が温まりました。福祉文化はこのようなところにも表れていることを実感しました。

私の地元も高齢化が進み、かつて駄菓子屋や本屋が軒を連ねていた商店街が、シャッター通りになっています。今回、同じく一度はシャッター通りとなった沼垂市場が商店街として

再建したことを体験とともに知り、地域の方の沼垂に対する愛を感じましたし、一度機能を失った場所が復活する可能性を感じました。大変貴重な体験でした。声をかけてくださった豊先生をはじめ、セミナーに参加していた皆さん、商店街の皆さんに感謝しています。机上の学習では学ぶことのできない実際が現場にはあって、それをたくさん見たり聞いたりして知りたいので、今後もフィールドワークに積極的に参加しようと思います。

「沼垂テラス商店街」福祉文化現場セミナーに参加して

新潟医療福祉大学社会福祉学科3年渡邊豊ゼミ 中出 愛里

沼垂テラス商店街は第一日曜日で朝市が行われていたこともあり、私が想像していた以上に賑わっていて活気がある場所だと感じた。また、古い外観のお店やシンプルで今時なカフェなど、レトロな感じを残しつつもおしゃれな雰囲気、子どもからお年寄りまで老若男女問わず楽しめる場所だと感じた。レトロな外観に年配の方は懐かしく感じ、逆に若者にとってはそのレトロな雰囲気が新鮮に感じて楽しめるのではないかと思った。

沼垂テラス商店街には、年配の方やカップル、親子連れなど本当に様々な人たちが訪れており、店員さんとお客さんやお客さん同士の触れ合いが多く、人と人の距離が近くてとても温かい雰囲気に感じた。商品の販売だけが目的ではなく、人と人の触れ合いやつながりを大切にしているように感じた。近所の方たちにとって、沼垂テラス商店街のレトロで賑やかな光景は当たり前なのかもしれないが、日常の中にあのような賑やかで温かい場所があるということがとても素敵なことだと感じたし、羨ましく思った。

新しいおしゃれな建物やお店、流行りの食べ物などを集めれば人は集まるのかもしれないけれど、沼垂テラス商店街のように昔の外観を残したままの方が、昔からその地域に住んでいる人たちにとっては嬉しいことなのではないかと思った。沼垂テラス商店街の昔の外観を残しつつもたくさんの人が訪れ、賑わっている光景を見て、すごく素敵な場所だと感じた。

新しい「福祉文化現場セミナー」の創造

日本福祉文化学会理事・総務委員長 渡邊 豊

このコロナ禍において、日本福祉文化学会初の「福祉文化現場セミナー」の開催となりました。

新潟福祉文化を考える会は、日本福祉文化学会創設当初の約30年前からほぼ毎年「福祉文化現場セミナー」を行ってきました。従来は約1年前から準備を始め、1泊2日の合宿交流型を基本として、「現場」となる市町村の社会福祉協議会等の福祉関係機関・団体との共

催など支援・協力を受けながら行い、参加者が200名を超える規模の時もありました。

しかし、このコロナ禍においても様々な企画を考えたものの計画倒れに終わり、1年以上にわたり実施をすることができませんでした。そんな中で今回やっと「福祉文化現場セミナー」が実現しましたが、今回の開催の前に、新潟県上越市安塚区細野集落で5月に開催を予定していましたが、コロナ禍の影響で6月27日に延期し実施することになりました。延期とはいえ、念願の実施に至ることはたいへん喜ばしく大きな前進です。

コロナ禍においても実現可能な「福祉文化現場セミナー」を模索する中で、新たな形で実施できたのが、今回の新潟市中央区の沼垂テラス商店街を主な現場としたセミナーでした。

実施にあたり留意したことは、次の点です。①医療関係者による検温等健康観察を行う（新潟福祉文化を考える会のメンバーに医療関係者がいます。）②参加者を新潟県内の10名以下に限定する③プログラムを短時間とし屋外での活動（フィールドワーク）を中心とする などの点です。

今回の実施が、今後全国各地で実施する「福祉文化現場セミナー」の一つのモデルとなることを願っています。これからも継続して新潟を主な現場としながら、「コロナ禍での新しい福祉文化現場セミナー」の創造に挑戦的に取り組み、「新潟モデル」として確立して全国の会員のみなさんに提示し、全国の会員のみなさんが気軽に「福祉文化現場セミナー」が実施できるようにサポートしていきたいと考えています。

新潟県福祉文化を考える会としては、7月の沼垂地区での追加開催を始め、「集落」、「温泉地」、「旅」、「映画」、「道の駅」、「良寛」、「子ども食堂」、「木育（林業）」、「文学」、「古書店」などをテーマに「福祉文化現場セミナー」を、新潟福祉文化を考える会のメンバー一人ひとりが企画中で、これらも「新潟モデル」として、全国の会員のみなさんに提示していきたいと考えています。

さらに、コロナ禍が収束した後は、まず、東北ブロック（主に福島県）と共催による「災害（東日本大震災、福島第一原子力発電所事故、中越地震）」をテーマにした「福祉文化現場セミナー」を実施できればと、東北ブロック担当の篠原拓也理事と夢見ています。次に他のブロックの協力を得ながら、「寄席（鈴木演芸場）」、「仏教（築地本願寺）」、「商店街（巣鴨商店街）」、「地域（焼津福祉文化共創研究会）」、「木育（檜原森のおもちゃ美術館）」をテーマにした「福祉文化現場セミナー」を実施したいと考えています。

日本福祉文化学会の初代会長である一番ヶ瀬康子さんは、「地方（地域）」と「現場」をたいへん重視されてきました。過去に新潟で実施した「合宿交流型」の「福祉文化現場セミナー」などに、講師として10回以上来県いただいています。

全国の会員のみなさんには、ぜひ気軽に、全国各地で日本福祉文化学会の原点の事業である「福祉文化現場セミナー」を実施してほしいと願っています。現場から学び、現場で活動・実践する人と研究する人が交流し、日本福祉文化学会の活動がより活発化、活性化することを願っています。

今回の「福祉文化セミナー」には、20代から60代まで幅広い年齢層から10名の参加が

あり、参加者からの感想文には、実に多様な「福祉文化の視点」が入っています。特に大学生からは、実際に現場を訪ね、歩き見て聞かなければ得られない貴重な感想が寄せられています。「福祉文化現場セミナー」こそ日本福祉文化学会の大きな特長であり、学会（研究・学ぶ会）であると同時に楽会（実践・楽しむ会）であることを参加者に実感させています。

これからも新潟発の「福祉文化現場セミナー」を日本福祉文化学会のホームページで紹介していきますので、全国の会員のみなさんは、共に参加したつもりでご覧ください。

【参考】

福祉文化現場セミナーのご案内

福祉文化と街づくり ～新潟市沼垂地区を歩く～

全国の日本福祉文化学会会員のみなさん、こんにちは。

「沼垂」・・・何と読むでしょうか？ 「ぬったり」と読みます。古くは日本書紀に「大化三年（647年）淳足柵（ぬたりのき）を造りて柵戸（きのへ）を置く」と記されており、淳足（ぬたり）は沼垂（ぬったり）に関連があると言われていています。（諸説あり）

現在の新潟市中央区沼垂地区は、新潟駅から徒歩20分程のところであり、東地区に「沼垂テラス商店街」ができました。旧沼垂市場から2015年頃に生まれ変わり、約30店舗が営業しています。また商店街に並行した道は「寺町通り」と呼ばれ、諸宗派の寺院が建っています。沼垂地区を歩きながら、「福祉文化と街づくり」について考えましょう。

多様な魅力溢れる沼垂地区へ、会員のみなさんの参加をよろしく願います。

■日時 2021年6月6日（日）11時～14時

※感染症拡大等により、7月4日（日）に延期することもあり得ます。

■会場 「沼垂テラス商店街」等（感染症防止対策を実施し対応します。）

（住所）新潟市中央区沼垂東3丁目 及び周辺

■日程 午 前 各自で沼垂地区をフィールドワーク

11時 開会（「沼垂テラス商店街」佐藤青果物店前）

挨拶 日本福祉文化学会北陸ブロック理事 五十嵐 真一

福祉文化と街づくり～沼垂地区から学ぶ～

実行委員長 渡邊 豊（日本福祉文化学会理事・総務委員長）

各自で沼垂地区をフィールドワーク

13時 意見交換会

まとめ 実行委員長 渡邊 豊

14時 閉会

各自で沼垂地区をフィールドワーク

■食事 「沼垂テラス商店街」で昼食等食事ができます。

■参加対象等 感染症防止対策のため、参加者は新潟県内に限定し10名以内とします。

■参加費 無料

■申し込み 5月25日（火）までに、下記へ申し込み願います。

日本福祉文化学会「福祉文化現場セミナー in 沼垂地区」実行委員長 渡邊 豊

mail : yutaka-watanabe@nuhw.ac.jp

なお、参加者は、事前に「沼垂テラス商店街」のホームページなどをご覧いただき、予習をお願いします。